

令和3年度 立川市立西砂小学校 学校経営計画

令和3年4月7日
校長 田中 義典

1 学校経営の基本理念

急速な社会の変化に伴い、予測困難な社会の中で生きていく子供たちが、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決し、たくましく未来を切り拓く資質・能力を身に付けることが求められる。学校はこれからの未来を切り拓く子供たちのために、新学習指導要領と東京都及び立川市教育委員会の教育目標並びに、立川市教育委員会学校教育の指針等に基づき、子供たちに対して「知」「徳」「体」の調和のとれた豊かな人間性を育むとともに、自分の考えをもち、自己を磨く学ぶ意欲、他者と協働しながら課題解決に粘り強く取り組む態度、自分を大切にし、他者を思いやり、感謝する心、地域を愛し地域に貢献する態度の育成に努める。

新型コロナウイルス感染症拡大の中、「子供たちの学びを止めない」ために、教育活動に様々な工夫と創造を重ね、学びの本質に目を向け、本当に必要なことを整理し、制限のある中でも創造力を働かせ、「できない」を「できる」に変えていき、さらなるチャレンジをもって取り組んでいく。

また、開校55年目を迎える本校の歴史と伝統を継承しながら、すべての児童が生き生きと学び、ニコニコ・ワクワクしながら学校生活を送り、一人一人の笑顔が輝くよう、全教職員および保護者・地域とが組織的・協働的に教育活動を展開する学校を目指す。

2 学校教育目標

人権尊重の精神を基盤として、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、様々な人との関わりを通して、自分の考えをもち、それを発信し、伝え合い、互いに高め合う児童、自主的・自発的に行動できる自立した児童を育てるために、次の目標を設定する。

① 思いやりのある子ども（徳）

感謝の心と思いやりの心を持ち、互いのよさを認め合える子

② 自分の考えをもつ子ども（知）…重点目標

様々なかかわりを通して学び、自分で考えて行動できる子

③ 健康で明るい子ども（体）

心と体を鍛え、粘り強くやりぬく子

3 目指す学校像

『今日の学びに喜び（ニコニコ）を感じ、明日に期待と希望を抱く（ワクワク）学校』

①児童の「できた、わかった、うれしい、楽しい」という喜びを大切にする学校

②互いのよさを認め合い、誰もが安心・安全に通える優しさと笑顔にあふれる学校

③教職員、保護者、地域が互いに信頼し、協働共助の精神を大切にする学校

4 目指す児童像

① 感謝の心と思いやりの心を持ち、互いのよさを認め合える子

② 様々なかかわりを通して学び、自分で考えて行動できる子

③ 心と体を鍛え、粘り強くやりぬく子

5 目指す教師像

① 教育のプロとしての高い意識をもち、児童のために学び続け、互いに切磋琢磨し高め合う教師

- ② 組織の一員として互いに支え合い、経営参画意識をもって職務にあたる教師
- ③ 児童、保護者、地域から信頼され、学校・地域のために力を尽くせる教師

6 立川第七中学校区 共通経営方針

- ① 小・中9年間の教育活動により、自立した子供たちを育てる。
- ② “知徳体の調和のとれた子供”を育てる。
- ③ 校区スタンダード（学習・生活）を共有し、協働して取り組み、定着させる。

<校区の目指す子ども像>

「自ら学び、自ら行動する、自立した子ども」

7 学校教育目標の具現化のための取り組み

学校運営協議会と地域学校協働本部が活発に機能したコミュニティ・スクールを展開することにより、地域との協働による学校経営を図るとともに、カリキュラム・マネジメントによるPDCAサイクルを進め、地域人材や地域資源を積極的に活用し、次のような学校づくりを推進する。

<キャッチフレーズ・・・「つながる ひろがる 笑顔輝く 西砂小」>

(1) 確かな学力の定着に向けて

- ①各教科における目指す資質・能力を育成するための「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践
 - ・授業改善推進プランの活用を図りながら、各教科等の「見方・考え方」を生かし、一単位時間や単元の指導においてのめあてを明確にした授業を展開する。
 - ・一単位時間の授業において、「立川スタンダード20」に基づき、知識・技能の習得の場面と、習得した知識・技能を活用し自らの考えをもって課題を解決する場面を意図的、計画的に位置づけた指導を実践する。
 - ・学習への意欲、協働的な学び、日々の生活とのかかわりを意識した指導を工夫する。
 - ・校内研究による授業研究を通して、指導力の向上を図る。
- ②基礎的・基本的な学力の定着を図る指導の充実
 - ・学習の基盤となる言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等を教科等を横断的な視点で育成するカリキュラム・マネジメントの充実を図る。
 - ・朝学習、朝読書、放課後算数教室等の時間を計画的に設定し、東京ベーシックドリル等を活用した補充的な学習の充実を図る。
 - ・家庭での学習時間を学年ごとに設定し、タブレットPC等を活用した反復学習を中心とした基礎的な学力の習熟と学習習慣の定着を図る。
- ③体験的な学習を取り入れた、実生活に結び付く指導の工夫
 - ・地域素材を生かした体験的な学習を計画的に実施し、生きた学びを実践する。
 - ・タブレット端末を活用し、情報活用力やプログラミング的思考力を育む指導の充実を図る。
 - ・学んだことを全校や地域へ発信する場面を意図的に取り入れ、表現力を伸ばす。

(2) 豊かな心の育成に向けて

- ①全教育活動を通して、人権教育、道徳教育を推進する。
 - ・「ふれあい月間」「いじめ解消・暴力根絶旬間」「人権週間」等において、人権尊重の理念を正しく理解させ、学校生活において児童自らが互いに認め、理解し合えるような取り組みを充実させる。
 - ・「特別の教科 道徳」の授業を要として、考え、議論する道徳の授業を実践し、道徳的判断力と実践力の育成を図る。
- ②生命尊重、命の授業の充実
 - ・道徳の授業、学級活動を活用し、命の大切さを説く授業を毎学期実施する。

- ・ SNS ルールの周知と徹底、SOS の出し方教育の充実を図る。
- ③多様性の尊重、多文化共生の意識を高める。
 - ・ 異学年交流、障がいのある方との交流、幼児・高齢者との交流、外国の文化理解等、体験的、実践的な取り組みを通して理解を深める。
- ④言語環境を整え、正しい言葉遣いやマナーを身に付けさせる。
 - ・ あいさつの励行、「ふわふわ言葉」の推奨、授業規律・生活規律の徹底を図る。
- ⑤特別活動における集団活動を通して、互いに協力することや集団や社会における生活や人間関係をよりよく形成しようとする態度と社会性を養う。
 - ・ 「学級カスタンダード」を活用し、より良い人間関係を育てる指標とする。

(3) 健やかな体の育成に向けて

- ①体力の向上、運動への関心意欲の向上を図る指導の工夫
 - ・ 体力調査の結果に基づく体育科の授業改善を進める。
 - ・ 休み時間や運動旬間等を利用した、運動の日常化、習慣化を図る。(縄跳び、持久走等)
 - ・ 「西砂チャレンジ」(いろいろなジャンルでの得意を伸ばす、目標を作る、挑戦する意欲を喚起)
- ②基本的な生活習慣の定着
 - ・ 定期健康診断、食育、養護教諭や医療関係者と連携した保健学習等を利用した健康教育の実施と、家庭と連携した早寝早起き、朝ご飯、家の手伝い等、規則正しい生活習慣を身に付けさせる。
- ③オリンピック・パラリンピック教育の推進
 - ・ 東京2020オリンピック・パラリンピックの実施に合わせ、様々な運動の体験や学習、見学を通して、運動への興味関心、意欲の向上、オリンピック・パラリンピックムーブメントを高める。

(4) 特別支援教育の充実に向けて

- ①全教員が特別支援教育についての理解を深め、特別な支援を必要とする児童へ適切な対応について教師の指導力を高める。
- ②特別支援教室キラリと連携し、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会を有効に活用し、児童理解の推進と教育相談機能を充実させる。
- ③SCや巡回相談員、教育委員会、子ども家庭支援センター等の専門的な知識を有する人や機関と連携し、保護者への支援を行う。

(5) 安心・安全な学校を目指して

- ①生活指導の充実
 - ・ 校内での規律を守り、事故を防ぐための学校のきまりを理解させ、きまりを守ることの意義と実行力を身に付けさせる。
 - ・ 「いじめは絶対に許さない」姿勢を貫き、少しでも気になる言動があった場合は、躊躇せず指導するとともに、児童の声に耳を傾け、内面に働きかける指導を行う。
 - ・ インターネットやスマートフォン、SNS等の安全で正しい利用の仕方について、家庭や地域等と協働しながら指導を行う。
 - ・ あいさつ、靴箱整頓、清掃等をしっかり行い、気持ちの良い学校生活を送るための学級指導を充実させる。
- ②安全教育の充実
 - ・ 安全教育プログラムを活用し、毎月1回の安全指導を計画的に行い、安全に対する意識の向上を図る。
 - ・ 毎月の避難訓練、セーフティ教室、自転車教室、交通安全教室、携帯教室、応急救命教室等、実践的な学習や専門家による指導を行い、自らが危険を予測し、回避する能力や地域社会の安全に役立つとすると力を身に付けさせる。

- ・朝の会や帰りの会、給食の時間等を活用し、日常的な安全指導を行う。

③安心して生活できる環境の整備

- ・全教職員による毎月1回の安全点検を確実に行うとともに、日々の生活の中で危険個所や危険を伴う活動に対する意識を高くもち、未然防止に努力するとともに、適切かつ迅速な整備に努める。
- ・児童理解に努め、不安を抱える児童に対しては、受容傾聴の姿勢を大切にし、保健室やふれあいルームを活用した居場所づくりや教育相談機能の充実を図る。
- ・食物アレルギー対応は複数の目で確かかつ組織的に行い、事故ゼロを目指す。
- ・PTA、シルバー見守り等と連携して、登下校の安全確保と事故防止に努める。

(6) 地域とともにある学校を目指して

①立川市民科の学習の充実

- ・地域を題材にした学習を全学年で系統的・計画的に取り組む。
- ・農業体験、伝統工芸体験等、地域の人材を講師に招き、体験活動を重視した、生きた学びを行う。
- ・学習したことを、積極的に地域に公開し、地域と協働した学びに深めていく。

②学校運営協議会と地域学校協働本部が活発に機能にしたコミュニティ・スクールを展開し、地域との協働による学校運営を図る。

③立川七中校区内において、小中連携活動、小小連携活動、幼保小連携活動を推進させ、情報共有や交流活動を通して、校種間の確実な接続を行う。

(7) 学校運営の充実に向けて

①学校における働き方改革を進める。

- ・校務分掌や学校行事等の見直しをすすめ、業務改善を通じた仕事の効率化を図る。
- ・学校事務共同化の実施に伴い、私費会計標準化マニュアルに則った事務を確実にを行い、会計事故を防ぐ。

②サービス事故ゼロを継続する。

- ・定期的なサービス研修を実施し、サービス事故防止の意識を高める。
- ・職場内の情報共有を密に、風通しのよい職場環境作りに努める。